

# Ⅲ-4 地区別 まちづくりの 目標と課題

この「地区別まちづくりの目標と課題」は、前総合計画の策定時に市内8地区(大滝地区は当時は含まれておりません。)で開催した「地域のまちづくりを考える集い」において、皆さんと話し合い、まとめ上げたものを基本に再掲したものです。

各地区の「将来像」の実現には長い時間を要することから、新たに大滝地区を加え第六次総合計画においても引き継いでいきます。

今後も皆さんとともに考え、話し合いながら地域の課題解決へ向けた取組を進めてまいります。

1. 黄金地区	P 74
2. 稀府地区	P 76
3. 東地区	P 78
4. 関内地区	P 80
5. 中央地区	P 82
6. 市街地区	P 84
7. 長和地区	P 86
8. 有珠地区	P 88
9. 大滝地区	P 90

## 用語解説

[P75、77、83、87]

### ●北海道の区域指定制度

以前の既存宅地制度に替わるものとして平成18年に北海道が指定した区域で、伊達市では8箇所(黄金2箇所、稀府、末永2箇所、館山、館山下、長和)が指定されました。この指定区域は全て市街化調整区域ですが、一定の要件を満たしている土地について開発許可や建築許可を受けて住宅や店舗などを建設することができます。

# 1

## 黄金地区

### 将来像

### 地域資源がひかりかがやく、やすらぎと交流のまち

### まちづくりの目標

#### ■心がかよい、ぬくもりのあるまち

あらゆる世代が強いつながりで主体的に地域活動を行うとともに、地域に住む人たちが助け合い、安心して暮らせるあたたかいまちをめざします。

#### ■「だての玄関」にふさわしい、きれいなまち

だての入り口として、また「黄金」の名にふさわしいまちづくりを進めるため、花壇整備や緑を増やす植樹活動を行い、きれいなまちをめざします。

#### ■縄文人に学ぶ、ふれあいのまち

地域の財産「北黄金貝塚」を体験学習など多方面から有効に活用して、多くの人が訪れ集まり、互いに交流できるまちをめざします。

#### ■豊かな自然に抱かれた健やかなまち

恵まれた自然をできる限りそのまま保全するとともに、自然エネルギーや牧畜、観光などに活かし、環境の良い元気なまちをめざします。

### 現況と課題

黄金地区は、本市の南端に位置し、西は牛舎川、東はチマイベツ川を両端として室蘭市に隣接する地域です。酪農、畜産を産業の柱として発展してきており、水産業においても、黄金漁港を活用した漁業の振興に期待が寄せられています。

近年整備された黄金地区コミュニティセンター「はまなす館」は、地域住民の交流やさまざまな活動の場として利用されており、国指定史跡である北黄金貝塚は史跡公園施設として整備され、遺跡の見学や学習活動などに活用されています。

また、市営住宅（黄金団地）の建替や生活道路の整備が進むとともに、公共下水道の整備や合併処理浄化槽の導入促進など地域の生活環境の整備が進められています。

さらに、急傾斜地対策事業やチマイベツ川の河川改修など、地域の防災対策も進められています。

しかしながら、地域では自然に優しい河川改修や海岸保全施設の離岸堤の早期完成が望まれています。

今後とも、安全対策をはじめ、地域の生活環境の向上に努めるとともに、地域に数多く有するさまざまな資源の活用を図っていく必要があります。

■生活・市民・行政

- ・防犯灯の設置や防風林の保全など安全を確保する必要があります。
- ・地域住民同士や行政との意見交換を行い、つながりを強めながら諸問題に取り組む必要があります。

■産業・観光・教育

- ・地域の気候を活かして風力発電事業に取り組み、地域の活性化を図る必要があります。
- ・黄金漁港をレジャー施設としても活用し、より有効なPRが必要です。
- ・北黄金貝塚をPRして、教育面だけでなく観光面にも活用するとともに、地域の財産として地域で守る意識を高め、主体的に運営する取組が必要です。
- ・「黄金」という地名を利用し、駅前周辺を整備して観光に活かすとともに、胆振有数の有名な牧場をPRし、競馬ファンなど観光客を呼べるまちづくりを進める必要があります。

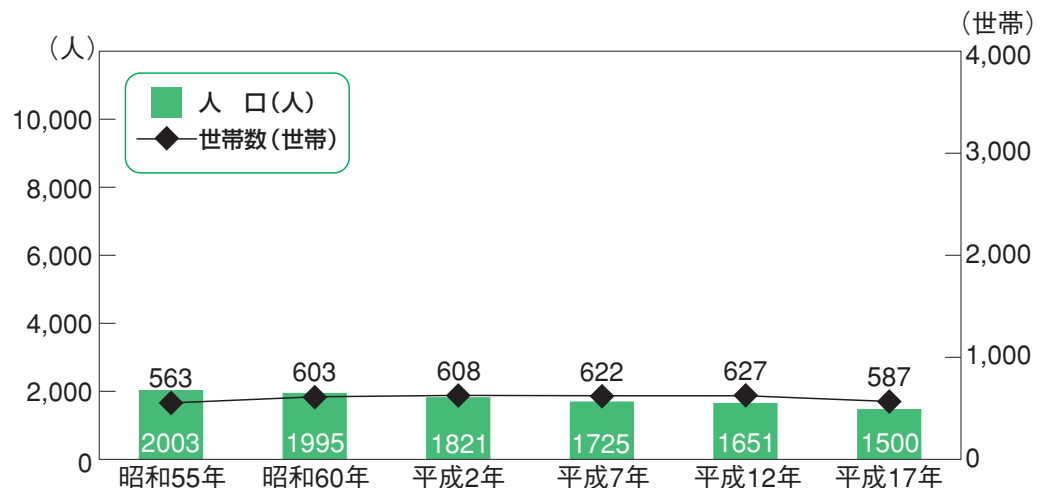
■景観・自然環境・緑地

- ・地域の素晴らしい景観を守るため、必要以上の開発を抑制し、自然環境の保全に努める必要があります。
- ・地域と行政の協働による花壇の設置や植樹に取り組み、「伊達市の玄関」としてふさわしい環境整備が必要です。
- ・「地区の花・木」を選定し、緑化の意識を高め、緑化運動への取組を進める必要があります。

■道路・交通・住環境

- ・高齢者の交通の便を確保するため、愛のりタクシーや有償ボランティアの利用を促進するとともに、老朽化しているバス待合所を地域の顔となるような整備が必要です。
- ・住宅地の多い生活路線を中心に自然に配慮した道路整備が必要です。
- ・居住環境を高めるため、合併処理浄化槽の一層の導入促進が必要です。
- ・北海道の区域指定制度\*などを活用し、新たな宅地の創出に努める必要があります。

■人口と世帯数の推移(国勢調査)



## 将来像

## 地域と自然が調和する住み良いまち

## まちづくりの目標

## ■あたたかな暮らしを創造するまち

地域ボランティアなど地域活動が活発に行われ、さらに新たな宅地の創出により集落が広がっていくまちをめざします。

## ■緑があふれ、田園風景があるまち

平坦で見晴らしの良い土地に豊かな自然と緑が広がり、優れた景観とのどかな田園が感じられるまちをめざします。

## ■安全で快適なゆとりあるまち

道路や下水道など、安全性と快適性に優れた都市施設が整備された住環境と、地域住民が互いに助け合い、また健康づくりが活発な、安心してゆとりある生活を営むことができる田園都市をめざします。

## ■力強い農漁業が明日をひらくまち

地域特有の土地形状を活かして農業が発展するとともに、漁業が活性化し、生き生きとしたまちをめざします。

## 現況と課題

稀府地区は、本市中心部の東側約6kmに位置し、西は谷藤川、東は牛舎川を両端として南北に広がる地域であり、平坦な田園緑地を有し、自然景観にも恵まれています。

一部住宅地を除いた山側は、全体的に優れた景観と豊かな農産物をつくり出す農地が広がっています。

地区内には多数の集落が形成されており、住宅地としての需要も高くなっています。平成10年には、みどり団地が市街化区域に編入され、近年は、寿線や幸線をはじめとする生活道路の整備やみどり団地地区の公共下水道など、住環境の基盤整備が進められています。

また、地域住民の手により設置された「まれふふれあい公園（くじら公園）」も、地域の憩いの場としての役割を果たしています。

今後は、宅地開発や排水問題に取り組むなど計画的な土地利用を推進することが課題となっています。

さらに、通学路の安全を確保するとともに、地域の生活道路の整備を図る必要があります。

■福祉・生活・市民・行政

- ・地域活動の活性化をめざし、既存施設の充実を図る必要があります。
- ・行政と協働で地域ボランティアの組織化を進めるなど、高齢者対策への取組が必要です。

■教育・スポーツ

- ・市民や高齢者の憩いの場であるパークゴルフ場を活用したスポーツの振興と健康づくりを進める必要があります。

■河川・公園・緑地

- ・谷藤川、牛舎川の水質改善に取り組み、子どもが遊べ、自然体験学習ができる川づくりが必要です。

■土地利用・住環境

- ・農漁業と調和を図りながら秩序ある土地利用計画を策定し、北海道の区域指定制度\*や市街化調整区域の地区計画制度などを活用し、新たな宅地の創出に努める必要があります。
- ・下水道の普及促進を図るほか、市街化調整区域の排水問題の解消や合併処理浄化槽の導入促進が必要です。
- ・稀府墓地の環境整備が必要です。

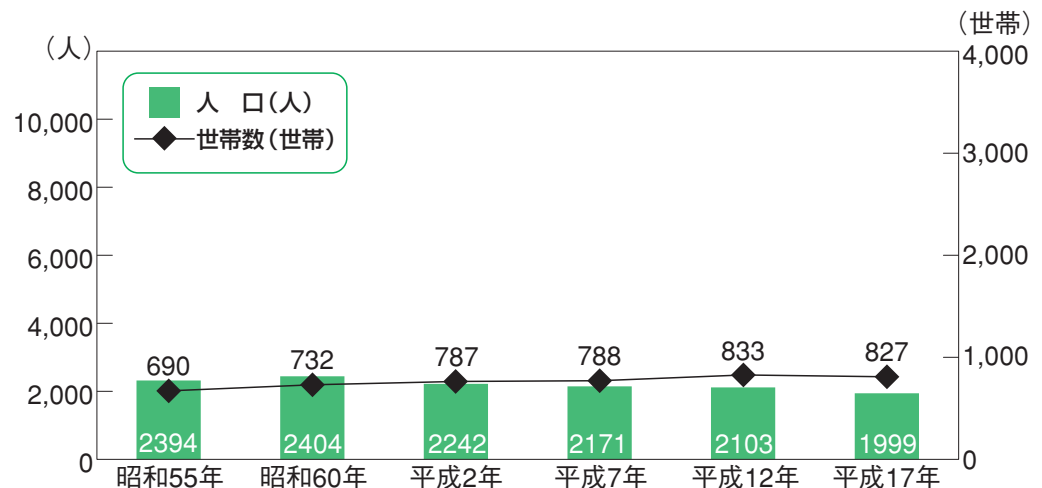
■自然環境

- ・地域住民による美化運動に取り組み、豊かな自然環境を活かした田園都市のイメージを定着させる必要があります。

■道路・交通

- ・生活道路の整備や通学路の歩道整備など、安全に配慮した道路づくりが必要です。
- ・高齢者の日常生活の足として、愛のりタクシーの利用拡大が必要です。

■人口と世帯数の推移(国勢調査)



## 将来像

## 地域が主役の心豊かな活力あるまち

## まちづくりの目標

## ■心の優しさを感じ、安心して暮らせるまち

地域住民の思いやりと活発な自治会活動で、若い人から高齢者まで安心して生活できるまちをめざします。

## ■力を合わせ、自然と共生するまち

市民と市民、市民と行政が協力しあい、それぞれの役割を担いつつ、河川や公園などの自然や緑を守り育てるまちをめざします。

## ■利便性の高い住みよいまち

北舟岡駅周辺の整備を進め、交通の利便性を高めるとともに、地域のニーズに対応した土地の活用ができ、優れた居住環境を備える住みよいまちをめざします。

## ■一人ひとりが自ら参加し、活動するまち

地域住民一人ひとりがモラルを高め、美化運動などに取り組むとともに、身近な問題を地域住民の手で解決できる、住民が主体で活動するまちをめざします。

## 現況と課題

東地区は、本市中心部のすぐ東側に位置し、西はシャミチセ川、東は谷藤川を両端として南北に広がる地域です。山側は農地などの生産緑地に恵まれ、豊かな自然と優れた景観を形成しており、海側は一部を除き市街化区域であり、近年は宅地開発が進み、公営住宅の改築・建替などの住環境整備が行われ、居住地として成熟してきており、人口の増加が著しい地域です。

北海道縦貫自動車道伊達インターチェンジにつながる主要道道伊達インター線の沿道には軽工業や流通を中心とした松ヶ枝地区中小企業団地が形成されており、近年は新たなショッピング・エリアも形成されつつあります。

東地区コミュニティセンター「みらい館」は、地域のコミュニティ活動だけでなく、サークル活動などを中心に全市的に利用されています。

また、福祉活動の拠点である「ふれあい福祉センター」や療養型病院など、高齢社会に向けた施設が立地しています。

今後は、ひとり暮らしなどの高齢者対策や自然環境をまもるための住民意識の向上等、自治会などの担う役割が増えることから、地域活動の活性化を図ることが必要です。

さらに、土地需要が堅調であり、新たな宅地等を望む声が高まっていることから、土地利用の見直しや、密集する住居地域の交通安全の確保や安全な道路づくりも重要な課題となっています。

また、豊かな自然と優れた景観を積極的に活用することも検討していく必要があります。

### ■福祉・生活

- ・自治会活動の活性化を図るため、自治会戸数や自治会区域の見直しを行うとともに、若い人の自治会加入促進や活動への参加が必要です。
- ・増加する高齢者が安心して暮らせるよう、ひとり暮らしの高齢者に対し地域で声かけを行ったり、グループホームの設置を促進する必要があります。

### ■教育・スポーツ

- ・地域住民はもとより、市民の健康づくりの場としての基幹となるスポーツ施設を整備する必要があります。

### ■河川・公園・緑地

- ・シャミチセ川の自然の豊かさを守るため、市民と行政が協力しながら適正な管理を行う必要があります。
- ・舟岡公園の植樹を進めるなど、市民がくつろげる空間の創出が必要です。

### ■景観・土地利用

- ・わかりやすいまちをめざし、案内板による地番の表示や、住居表示などの検討が必要です。
- ・地区の特性を把握し、必要な用途を見極めながら市街化調整区域の地区計画などを活用し、計画的な土地利用を進める必要があります。
- ・伊達市の導入路として交通量が増加している伊達インターチェンジ周辺について、自然環境と調和した土地利用の検討を進める必要があります。
- ・「伊達百景」を選定し、地域の優れた景観を活かすような取組が必要です。

### ■自然環境

- ・まちをきれいにするため、地域住民の美化運動への積極的な参加などの啓蒙を行うとともに、ゴミの不法投棄やペットの糞などをなくする取組が必要です。

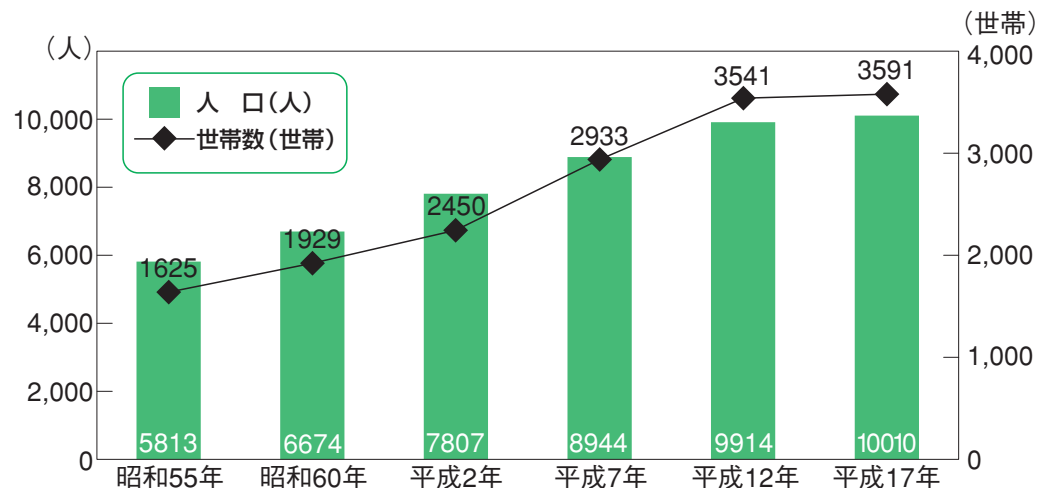
### ■道路・交通・住環境

- ・住居が密集していることを考慮し、特に安全に配慮した道路づくりが必要です。
- ・北舟岡駅の機能を充実させ、利用者数を増やし、地域住民の利便性の向上を図るとともに、憩いの場としての整備が必要です。

### ■市民・行政

- ・地域のサークル活動などの情報提供を行いながら、活動の輪を広げていく必要があります。

### ■人口と世帯数の推移(国勢調査)



## 将来像

## 自然とふれあう緑豊かなゆとりあるまち

## まちづくりの目標

## ■ 親しみと思いやりのあるまち

地域の誰もが協力しあい、一体となって心豊かな地域社会をつくりながら、お互いが困ったときに助け合うまちをめざします。

## ■ 地域を支える農業が発展するまち

地域の基盤である農業が活発で、潤いと明るさのあるまちをめざします。

## ■ 個性ある教育と文化が育つまち

地域の伝統文化を大切にし、継承するとともに、豊かな自然に触れながら、のびのびと人が育つまちをめざします。

## ■ 恵まれた自然に囲まれた快適なまち

恵まれた自然を満喫しながら、開放的でのんびりと暮らせる快適なまちをめざします。

## 現況と課題

関内地区は、本市の北東部に位置し、広大な農地を有する農村地域です。

また、豊富な自然環境、さらに山岳・丘陵地からの眺望など、恵まれた景観を有することから、ゴルフ場などの地域特性を活かした施設が配置され、近年は、道道上長和萩原線（東関内～上長和間）の開通により、地域産業の振興に役立っています。

さらに、自然と調和した住環境を形成するため、上水道の整備や合併処理浄化槽の導入が進んでおり、平成20年に整備された優良田園住宅“田園せきない”の分譲によって、定住人口の増加が期待されています。

しかし、農業においては、後継者不足や新規就農がなかなか進まないといった根幹に関わる問題を抱えており、農業基盤の整備や農業経営の安定が課題になっています。

今後は、教育環境のあり方や、伝統文化の継承などを含めて、地域の活性化につながる施策を検討していく必要があります。



■福祉・生活

- ・新規就農者やUターン者なども地域にとけ込めるような、一体となった地域社会をつくるため、世代や業種をこえた広範囲での地域住民の交流の場を設ける必要があります。

■産業

- ・農業の共同化や効率化を図るとともに、後継者や新規就農者のための環境を整えるなど、地区の基幹産業である農業の振興が必要です。

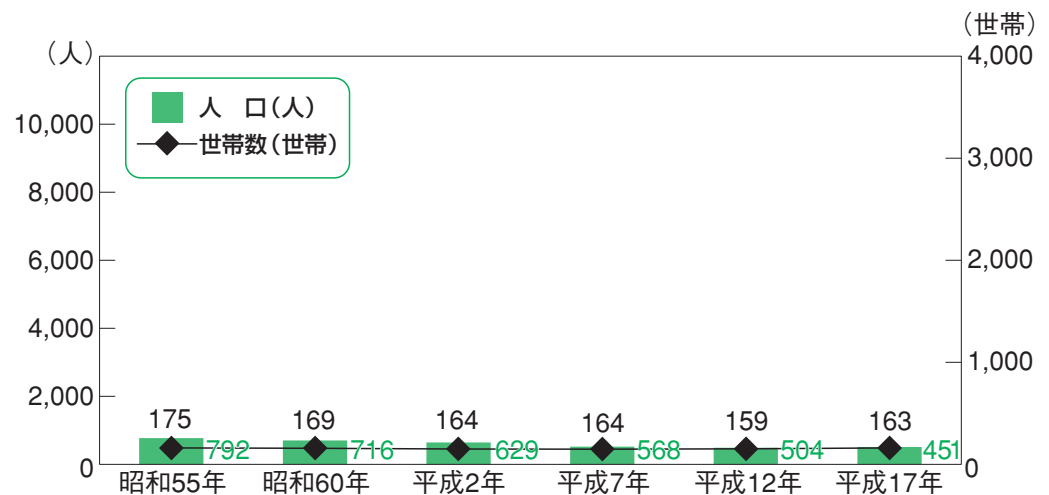
■教育・スポーツ

- ・関内固有の伝統芸能である仙台神楽を保存するため、保存会への支援や継承者育成の取組が必要です。
- ・自然環境や関内地域の良さを活かし、校区外からの希望者受け入れ体制を充実するなど教育環境の整備が必要です。

■自然環境・住環境

- ・恵まれた自然環境に配慮した住環境の整備など、地域の発展につながる取組が必要です。
- ・パークゴルフ場、桜など既存の施設や自然を有効に利用するとともに、その充実を図る必要があります。

■人口と世帯数の推移(国勢調査)



## 将来像

## 自然を愛し、人と人がふれあうまち

## まちづくりの目標

## ■子どもからお年寄りまで、楽しく集い活気のあるまち

子どもや高齢者、障がい者など、みんながいつも交流、情報交換し、隣り近所が仲の良い環境をつくり、自治会活動など地域活動が盛んなまちをめざします。

## ■開拓の歴史と文化を伝えるまち

伊達開拓発祥の地として、その歴史と文化遺産を保全するとともに、後世に残し伝え、また観光資源として有効に活用し、次代に誇れるまちをめざします。

## ■自然と親しみ、緑を育むまち

住民一人ひとりが自然をまもり、緑を大切にしながら、憩いと親しみのあるまちをめざします。

## ■共につくる、開かれたまち

市民と行政が互いに情報を共有し、協働しながら、地区に多数いる有能な人材を活用するなど、積極的な市民参加により住みよいまちをめざします。

## 現況と課題

中央地区は、本市のほぼ中央に位置し、海側は館山下町、山側は乾町と広範囲にわたる地域で、特に国道沿線は商業、経済、文化の中心としての役割を果たしています。施設のにも医療、スポーツなどの公共施設が集積する地域であるとともに、だて歴史の杜、プライムヘルシータウンや中央区集会所など、住環境の整備が顕著に進み、人口が市内で最も増加傾向にあります。

しかし、新興地であるため弊害も多く、人口の増加に伴う地域コミュニティ活動の底上げや緑地の減少などとともに、生活道路の整備など新たな住環境整備が課題となってきています。

また、総合公園「だて歴史の杜」内には、カルチャーセンター“あけぼの”や開拓記念館、宮尾登美子文学記念館、黎明観など、伊達市の歴史、文化、観光の中心的施設が集積していることから、まちの情報発信基地として積極的活用を図ることが必要です。

■福祉・生活

- ・中央区集会所を自治会活動だけでなく、地域住民の交流、情報交換など地域活動の拠点として活用することが必要です。
- ・隣り近所との交流の機会を増やし、人と人との心がかよいあう地域づくりが必要です。
- ・地域に埋もれている有能な人材を発掘し、積極的に技術などを提供する仕組みづくりの検討が必要です。
- ・住み良いまちをつくるため、ゴミ処理、リサイクル、住環境の美化、生活安全、青少年の育成などを住民参加で進めることが必要です。

■産業・文化・観光

- ・黎明観を中心とした伝統文化の継承活動の推進が必要です。
- ・開拓の歴史・文化を伝える開拓記念館の整備が必要です。
- ・「道の駅」を地場製品の販売や情報発信の拠点として有効活用し、観光の集客力を高めることが必要です。

■自然・景観

- ・気門別川、水車・アヤマ川などの河川や道路、公園を利用して、全体的、横断的に緑地のゾーニングを行い、緑のネットワーク化を進める必要があります。
- ・中央地区の魅力となっている館山公園や開拓記念館、気門別川沿い、旧シャミチセ川沿いの「桜」等を活かした整備が必要です。
- ・道路など都市基盤の整備においても自然を残し、環境に配慮するとともに、住民参加による緑を増やす運動の取組が必要です。

■土地利用

- ・北海道の区域指定制度\*や市街化調整区域の地区計画制度などを活用し、新たな宅地の創出に努める必要があります。

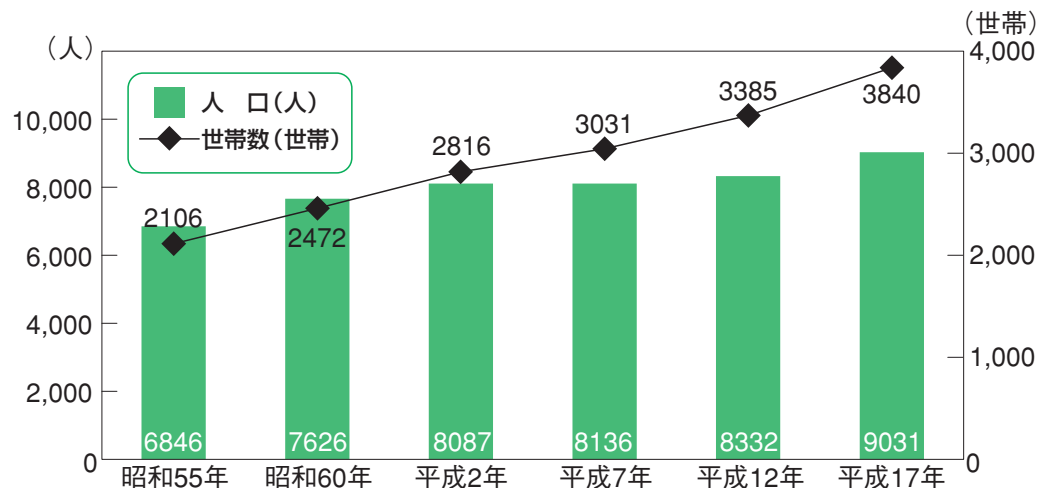
■道路・交通

- ・避難道路の検討を含めた主要幹線道路の整備、障がい者や高齢者にやさしいバリアフリー化など、安全性を重視した生活道路の整備が必要です。

■教育・スポーツ

- ・総合公園「だて歴史の杜」内に市民の健康増進、生涯スポーツの拠点となる総合体育館などの整備が必要です。

■人口と世帯数の推移(国勢調査)



## 将来像

## 人、自然、みちがつながり、にぎわいのあるまち

## まちづくりの目標

## ■共に支えあい、安心して暮らせるまち

地域活動に住民が積極的に参加し、パートナーシップによって住みよい環境をつくるとともに、高齢者や障がい者も安心して暮らせるまちをめざします。

## ■産業がいきづき、活気あふれるまち

コミュニティの核である商店街が活気にあふれ、漁港には人が集まるなど、誰もが寄ってみたいくなるまちをめざします。

## ■自然と調和する美しいまち

水と緑が調和し、快適で過ごしやすい空間があり、また、住民の高いモラルでまち並みを美しく保つまちをめざします。

## ■安全とやさしさをつなぐまち

4つの地域をネットワークで結び、幹線道路や生活道路など道路網が整備され、災害時や緊急時でも安心して生活できるまちをめざします。

## 現況と課題

市街地区は、本市のほぼ中間部から噴火湾沿いに南北に広がっており、市役所などの官公署や金融機関、さらに多くの商店街が集積し、本市における経済の中心的役割を担う地域です。さらに、JR伊達紋別駅や道南バス停留所など、交通の要衝としての役割も果たしてきました。

また、早くから下水道をはじめとする住環境の整備など、人口集中地区にふさわしい居住環境づくりが進められ、幹線道路の整備や商店街の近代化などにより地域の活性化が図られてきました。

しかし、商業面では相次ぐ大型店の出店や車社会の定着、生活様式の変化から生活圏が拡大しており、既存商店街になかなか活気が戻らないという現状にあります。それに伴い、商店の移転・撤退が発生し、市街地の空洞化なども進んでいます。いかに中心市街地に人を集め、賑わいを生み出すかが大きな課題となっています。

また、中心市街地の緑地も整備されてきていますが、今後とも市民が憩える環境をつくり出すことが必要です。

水産業については、伊達漁港の多角的な活用や後継者育成など、漁業の振興を図る必要があります。

さらに、西浜町をはじめとした海岸線沿いの地域は鉄道により分断されており、災害時や緊急時の安全確保、住民の不安解消が大きな課題となっています。

地域的には、より高齢化が進み、ひとり暮らしの高齢者対策や介護支援体制など地域福祉の充実が求められており、自治会の活性化など地域活動の充実を図る必要があります。

■福祉・生活

- ・災害時の避難場所としての機能と地域のさまざまな交流の場として利用できる拠点施設の整備が必要です。
- ・高齢化が顕著なため、介護支援など地域福祉の充実が必要です。

■産業・観光

- ・石蔵などの歴史的資源を活かしたイベントの実施などにより、商業の活性化を図る必要があります。
- ・駅前地区の整備など、個店の魅力と各商店街間の協力体制を高め、広いゾーンの中でまちづくりを進める必要があります。
- ・漁業の活性化と後継者の育成を図るとともに、近年整備された伊達漁港や交流広場を伊達の海産物提供の拠点として、また市民の交流や憩いの場として活用する取組を広げていく必要があります。

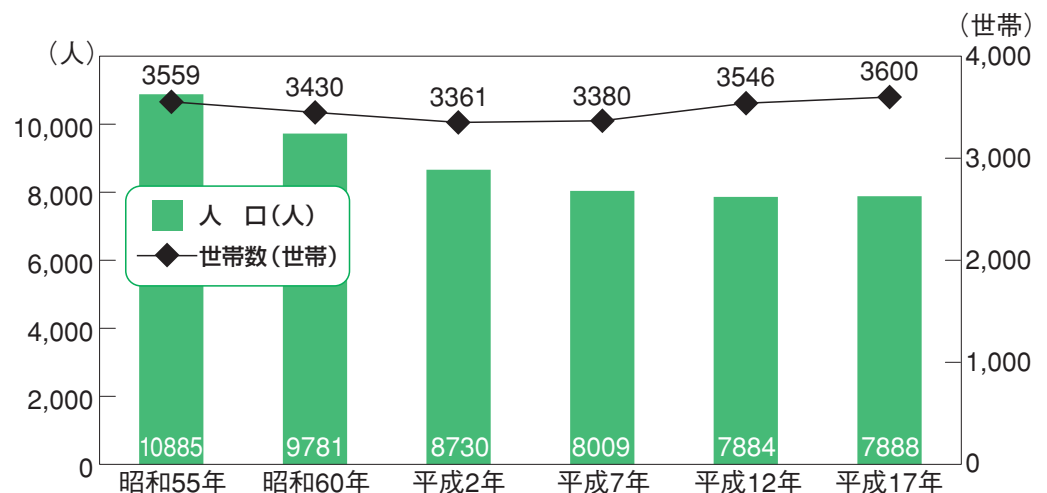
■自然環境・住環境

- ・河川敷の有効利用や、自然に配慮した親水性豊かな気門別川の整備が必要です。
- ・素晴らしい館山公園を有効利用できるよう、アクセスや駐車場の整備が必要です。
- ・減少する市街地区の緑を増やし、快適な環境を生み出すための公園緑地の整備が必要です。
- ・まち並みの美しさを演出し、それを壊すことのないよう住民レベルの環境美化運動を進める必要があります。

■道路・交通

- ・住民の不安解消を図るため、西浜町と山下町とのスムーズなアクセスが必要です。
- ・西浜地区の防災対策として、市道西浜通り線など幹線道路の整備が必要です。
- ・災害時は緊急道路として、通常時は国道等の交通渋滞解消のため、市街地の西側に避難道路の整備が必要です。
- ・高齢者の割合が高い地域として、バリアフリー化など歩行者の安全性を高める道路の整備が必要です。

■人口と世帯数の推移(国勢調査)



## 将来像

## 有珠山と共生し、自然と産業が地域を支える豊かなまち

## まちづくりの目標

## ■人と人とのつながりがさまざまな活動を支えるまち

子どもから高齢者までが交流や連携を深め、お互いに助け合い、協力しながら自治会活動などの地域活動を行うまちをめざします。

## ■新しい時代に対応した産業が賑わいを呼ぶまち

ブランド化した農作物等で農業が支えられ、また企業の進出により地域の雇用などが促進される活気のあるまちをめざします。

## ■親しみやすい自然が地域の健康と潤いを保つまち

長流川を運動広場や散策路に利用するなど、地域の豊かな自然を利用して、健康づくり活動や観光面への活用を図り、生き生きとしたまちをめざします。

## ■調和のとれた土地空間と充実した都市機能が形成されるまち

効率的に住宅地の環境整備が行われるとともに、地域の農業を守る有効な土地の利用を図り、災害にも強いまちづくりをめざします。

## 現況と課題

長和地区は、中心市街地の西部に位置し、東には2級河川長流川を配した、平野部と丘陵部からなる地域です。恵まれた気候と水利により、市内でも米をはじめとして優良な農作物が育つ穀倉地帯です。

臨海部の工業専用地域は、古くは北海道電力(株)伊達発電所、新しくは生コンクリート製造業など、市外企業進出の受け皿としての役割を果たしており、平成18年に稼働した北海道栽培漁業伊達センターは、今後の栽培漁業推進のための中核的な役割を担う施設として期待されています。

また、地域住民の交流の場である長和地区コミュニティセンター「ふれあい館」が開設し、災害時の避難道路としての長和農社通や山下長和通などの整備も進められてきています。

一方では、平成21年度末をもって長和中学校の統廃合が予定されており、これに伴う施設跡地の有効活用が重要な課題となっています。

今後は、安定した農業の振興に努め、豊かな自然など地域の良さを活かしていくとともに、工業団地の有効活用を進めながら、市民と行政が一体となり、災害に強いまちづくりを進める必要があります。

■生活・防災

- ・適正配置により学校としての使命を終えることになる施設は、地域の貴重な公共的財産であり、その有効活用により地域の活性化を図る必要があります。
- ・防災訓練をはじめとする防災意識の高揚に努める必要があります。
- ・安全な土地利用に基づく農業の振興と環境の整備を進める必要があります。

■産業・観光(河川・公園・景観)・スポーツ

- ・長和工業団地周辺の基盤整備を進め、時代にあった企業を誘致するなど、その有効利用が必要です。
- ・豊かな自然景観を楽しめるよう、長流川に散策路を整備するとともに、河川敷は、公園やスポーツ施設、イベント広場などに利用し、観光の振興を図る必要があります。
- ・地域の農作物を積極的にPRし、販売の促進など基幹産業の農業の振興を図る必要があります。

■土地利用

- ・国道沿線の沿道サービス型土地利用を一層進める必要があります。
- ・農業地域を守る土地利用を確立するとともに、地域の発展につながる北海道の区域指定制度\*の活用など有効な土地利用を図る必要があります。

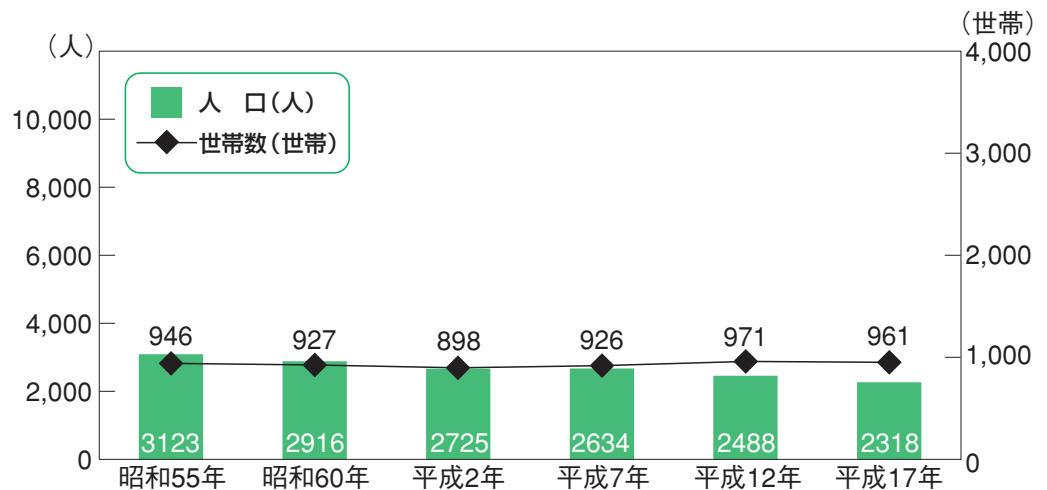
■自然環境・住環境

- ・まちをきれいに保つため、花壇の設置など地域活動を進めるとともに、モラル向上のための啓発活動が必要です。
- ・若生墓地での水の供給など環境基盤整備が必要です。

■道路・交通

- ・国道453号など基幹道路の整備を促進し、災害に強い安全で住みよい環境づくりを進める必要があります。

■人口と世帯数の推移(国勢調査)



## 将来像

## 歴史と文化が薫る出会いと感動のまち

## まちづくりの目標

## ■地域が支える、やすらぎある美しいまち

子どもと高齢者が活発に交流し、地域が一体となって美化運動に取り組むなど、助け合いと安らぎのあるまちをめざします。

## ■自然と歴史がネットワークで結ばれる体験型観光のまち

有珠山をはじめとする豊かな自然と有珠善光寺やバチェラー夫妻記念教会堂など道内有数の史跡・文化遺産が一体となり、それらを観光資源として体験・学習など有効に活用されるまちをめざします。

## ■活発な産業が地域の発展を促すまち

地域を支える農業や漁業が盛んで、地場産品としての付加価値を高め、観光と結びつけ、活気ある商業が展開されるまちをめざします。

## ■安心して暮らせる機能的なまち

災害時のもとより、観光や生活面でも高い機能を有する道路整備や防災施設、環境基盤整備を進め、安心して暮らせるまちをめざします。

## 現況と課題

有珠地区は、本市の最も北西部に位置し、西側は洞爺湖町と隣接し、山側は有珠山を従え、市内でも有数の観光名所がある風光明媚な地域です。

噴火湾は地域の漁業の拠点として、また海水浴場などの観光の拠点としての役割を果たしています。

山側は農業が盛んで、直売などにより販売促進が図られています。

施設的には、地域の活動拠点としての有珠地区コミュニティセンター「白鳥館」の開設や下水道の整備、アルトリ通り線など生活道路の改良により、徐々に生活環境が整備されてきています。

また、平成20年に改築された養護老人ホーム潮香園は、新たな施設の機能を活用した地域福祉の拠点としても期待されています。

しかし、海水浴場の観光客が年々落ち込み、従来の「通過型」から「滞在・体験型」観光への早急な転換が必要となってきています。このことから、メロン街道沿線に整備するパークゴルフ場や産地直売所と、平成21年度末をもって統廃合となる有珠中学校施設との一体的な有効活用を検討するとともに、有珠善光寺や史跡貝塚などの保存、周辺整備など、体験学習ができる環境を整えることが課題となっています。

また、排水整備や地域が一体となって清掃美化運動に取り組む必要もあります。

特に、有珠地区においては、市民と行政が一体となり、災害に強いまちづくりを進める必要があります。



■福祉・生活

- ・既存施設の利用も含め、多様な文化活動や交流活動の拠点づくりが必要です。
- ・コミュニティセンターを自治会活動ばかりでなく、子どもと高齢者の交流の場としても利用し、活発な地域活動を進める必要があります。

■産業・観光・教育・スポーツ

- ・観光地としての魅力を高めるため、有珠善光寺、海水浴場、有珠山などの豊富な観光資源の活用や、海岸線や丘陵地など優れた景観の整備が必要です。
- ・有珠中学校施設やパークゴルフ場など国道沿線における施設の有機的な連携を図り、活用を検討することが必要です。
- ・桜の名所の有珠善光寺や海水浴場に案内板などを設置し、PRを行う必要があります。
- ・ホタテ養殖の新たな工夫や各産業が連携し、地域に根差した産地直売所等による特産物販売の仕組みづくりにより、農漁業の振興を図る必要があります。
- ・有珠モシリ遺跡やバチェラー夫妻記念教会堂などの歴史資源を計画的に調査保存し、教育などへの活用が必要です。

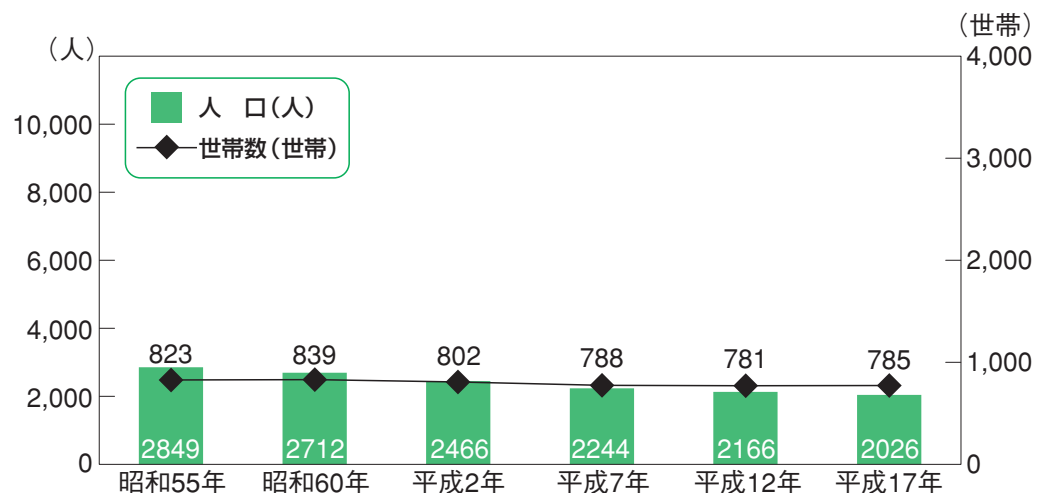
■土地・自然環境・住環境

- ・排水対策を中心とした住環境整備が必要です。
- ・住民の安全と自然環境との調和に最大限配慮しながら、地域の活性化のため、市街化区域内の未利用地の活用など、計画的な土地利用を図る必要があります。
- ・恵まれた自然景観を損なわないよう、住民主体での環境美化の取組が必要です。

■道路・交通・防災

- ・災害時の安全かつ迅速な避難や防犯上からも、地域全体の照明設備の充実が必要です。
- ・災害時だけでなく観光や生活にも活かせる避難道路の整備が必要です。

■人口と世帯数の推移(国勢調査)



## 将来像

## 豊かな自然環境を活かしたまち

## まちづくりの目標

## ■四季を通じ楽しく安心、快適に暮らせるまち

豊かな暮らしを支える道路整備、住みよさを実感し、若者の定住を促進する公営住宅の整備や快適な生活環境を実現するための上水道の整備、また、観光にも寄与する四季を通じ楽しく遊べる公園緑地の整備をめざします。

## ■個性豊かな生涯学習と地域に根づいた文化のまち

未来を担う子ども達の育成、生活を豊かにする芸術・文化、スポーツ活動の振興により、地域に根づいた文化の薫るまちづくりをめざします。

## ■自然にやさしい快適な生活環境のまち

豊かな自然環境を活かして、新たな視点から雪資源や温泉資源の有効活用など自然にやさしい快適な生活環境のまちづくりをめざします。

## ■地域資源を活かした夢あふれる産業のまち

豊かな地域資源を活かした地場産品の開発や、観光と一体化した新たな地域資源の発掘をめざします。

## 現況と課題

大滝区は、中心市街地から約35km離れ、壮瞥町をはさんだ飛び地にあり、「支笏洞爺国立公園」のほぼ中央に位置し、産業構造は農業、観光、福祉を中心とした自然豊かな地域です。

農業においては、中山間地域にあって、降雪が早く融雪が遅いなど農業経営には厳しい自然条件にあります。そのため、畜産や酪農に加えて寒冷地作物の栽培や地質を活かした作物など畑作が主体となり、複合型農業経営が中心となっています。

大滝区の代表作物としては、長いも、大根などに加えて最近では花卉栽培やアロニア（小果樹）栽培なども取り組んでいます。

しかし、農業を支える担い手不足と農業者の高齢化対策が課題となっており、また、農業者の農作業の軽減を図るため、重量作物から軽量作物への転換が求められています。

さらに、観光との連携を図り、農産物の加工等による特産品の開発など地場産業の振興のほか大滝区の地域特性に適した魅力ある農業の確立が求められています。

林業については、区域の8割が森林であることから除間伐材を活用し、ペレットボイラーやペレットストーブ用のエコ燃料となる木質ペレットの本格的な生産稼働や、これらに関連する産業の振興が期待されています。

観光業については堅調な傾向にありますが、周辺観光地との連携・協力が必要であり、圏域として観光客の集客につながるイベントの取組や、地域観光の振興に向けた観光協会、旅館組合等の連携強化など、ソフト面の整備促進が必要です。

福祉については、高齢化の進展に伴い雪対策をはじめ、通院や買い物など安心して暮らせる生活支援もついてニーズが高まっています。

このため、地域住民による支援など協働参加のまちづくりが求められています。

■福祉・生活・交通

- ・地域の活性化を図る上でコミュニティ活動はもとより、各種行事等に積極的に参加することが必要です。
- ・高齢社会の中、健康で生き生きとした生活を送るためには、地域全体で支え合う取組が必要です。
- ・情報通信システムの充実を図るため、ケーブルテレビの地上デジタル化の移行が必要です。
- ・広域交通網の整備はもとより、区内の交通対策事業が必要です。

■産業・観光・自然環境

- ・中山間地域の気象条件に適した寒冷地作物の奨励と高齢農業者の農作業の軽減を図るため、重量作物から軽量作物への転換が必要です。
- ・安定的な農業経営を図るため、三階滝町、上野町、円山町各地区について営農用水施設の整備が必要です。
- ・安定した農業所得をめざすため、付加価値を高める農産品等の加工と観光を取り入れた新農業ビジネスの育成や特産品の開発が必要です。
- ・体験型農業を中心とした観光事業の展開や、大滝区を訪れる観光客に新鮮でおいしい農産物を提供できるシステムづくりが必要です。
- ・健康、予防医療、保養といった視点から、温泉やスポーツ・レクリエーション施設などの地域資源の有効活用を図り、「癒しの里づくり」に向けた新たな観光需要を喚起することが必要です。

■教育・スポーツ

- ・少子化や核家族化が進展する中、児童生徒の豊かでたくましい心を育むため、子どもたちの社会参加や、地域住民の学校行事への参加など地域全体での取組が必要です。

■人口と世帯数の推移(国勢調査)

